

# 判定用紙

日付: 5/8

準決勝 / 決勝

試合会場: 4C1

肯定側: 孔明の民

否定側: D-Net C

## 判定理由・コメント

勝敗に関係のある論点は、以下の2つです。

① ワークシェアリングを導入する企業が現れるか否か？

肯定側: 「80%の経営者が導入したいと答えている」

否定側: 「1999年に政府が音頭をとったが、どこも導入しなかった」

この点の優劣はつけがたいのですが、~~今回~~今回は、「少しの企業でもしたかってしまえば…」という逃げを打った肯定側の説を採ります。

∴ ワークシェアリングは部分的に実現する。

② ワークシェアリングが部分的に実現したとして、こようは増えるか？

この点は、否定側の「今の企業側のモチベーションでは、時短の材料に使われるだけ」という主張を採ります。

このケースのメリットは2つともこよう増加に由来すると思うので、メリットなし ⇒ 否定側の勝ち。

気になった点: 「プランが無い場合の未来」



プランが無い場合に、a) 今よりもこようが悪化するのか、

b) 今と同じ程度が続くのか、... 肯定側のスタンスが一定していないと感じました。

DAの返しては a) のスタンスなのですが、ケースでは否定側につき合っ b) のスタンスをとっているという感じですね。

このディベートにおける勝者は: 否定側 D-Net C

審査員署名: \_\_\_\_\_